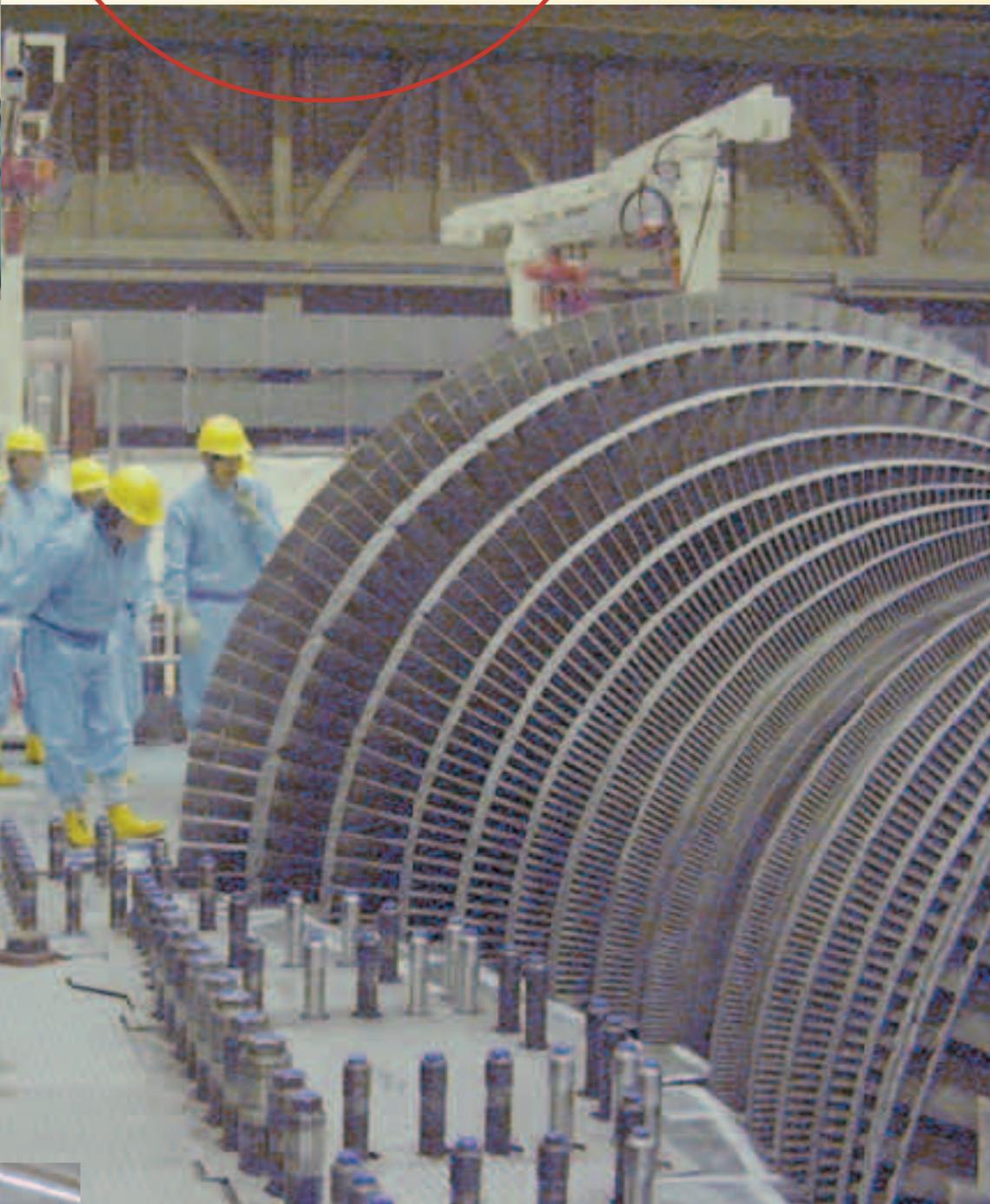


地域の会

▶定期検査中の5号機
原子炉格納容器を前
にして



▲東京電力柏崎刈羽原子力発電所視察（平成17年8月21日・22日）
5号機自動停止の原因となったタービン軸封部の説明を受ける委員



◀第25回定例会（平成17年7月6日）
オフサイトセンターにて。

CONTENTS

第25回定例会 防災システムの視察研修	2
第26回定例会 原子力防災訓練で意見交換	3
発電所を巡る動き みんなの広場	4

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会(「地域の会」)

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼動することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

地域の会 概要

- ①委員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた24名の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務：(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視
(2)事業者等への提言
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供
(4)委員の研修
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会(毎月1回)
臨時会(必要に応じ開催)
※会は、原則すべて公開。

第25回定例会

防災システムの視察研修

第25回定例会の概要

開催日	平成17年7月6日(水)
場所	新潟県柏崎刈羽原子力 防災センター
出席者	21名(欠席3名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村、放射線監 視センター、保安検査官事務所、 地域担当官事務所、東京電力㈱
内容	●前回定例会以後の動き ●原子力防災センター及び放射 線監視センター視察 ●原子力防災について *国・県の説明と質疑応答及び意見交換 ●その他

前回定例会以後の動き

(発電所を巡る動向) 報告

安全協定に基づく月例の状況確認と
4、5月分の主な不適合管理状況及び5
号機自動停止の状況確認(新潟県)。
油漏れ、ポンプ不具合、異物混入等の
不適合事象発生の原因と対策の説明更
に5号機自動停止についての説明が詳
しくされました(東京電力)。
また、県知事が記者会見で安全協定の
改定をする旨明らかにしました(新潟
県)。



前回「定例会以後の動き」事象に対して活発な質疑応答

Q 今回の報告では1号機のトラブル報告が他号機に比べて多い。1号機は運転開始後20年を経過しているが、老朽化の観点から、技術的な問題なのか、作業的な問題なのか、その原因を解析しているのか。

A(東京電力) 特に1号機の問題があつてトラブルが多いとは考えていません。全ての号機に対してメンテナンスをしており、たまたま1号機の報告が重なつたということです。

A(保安院) 定期検査に入ると、いろいろな作業が増え必然的に微小なミスが発見され、数の上で多くなるということもあるのでは。また、以前は公表しないレベルであつた事象が、現在は公表するレベルになつたことから、以前と比較して多いということもあるのでは。以前は今回の結露水や極少量の油漏れ事象などは公表外でした。

意見 いろいろな事象に対して、東京

第26回定例会

「西山町「いきいき館」を会場に」原子力防災訓練で意見交換

第26回定例会の概要

開催日	平成17年8月3日(水)
場所	西山町いきいき館 いきいきホール
出席者	19名(欠席5名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村、保安検査 官事務所、地域担当官事務所、 東京電力㈱
内容	●前回定例会以後の動き ●原子力防災について *国・県の説明と質疑応答及び意見交換 ●その他

前回定例会以後の動き

(発電所を巡る動向) 報告

保安院職員作成文書のインターネットへの流出経過と原因及び防止策(保安院)・電源開発促進対策特別会計のあり方の見直しにおける予算削減などの改善策(資源エネルギー庁)・月例状況確認と5号機自動停止(新潟県)・異物混入、二重扉同時開などの不適合事象及び5号機自動停止の原因と対策(東京電力)についてそれぞれ説明がありました。

異物問題を中心に質疑

意見 5号機停止は非常に初歩的なミスであつたが、安全側に働いて自動停止になつたからよかつた。これが3つ4つ重なり大事にならないうしつかりと対策をたててほしい。

Q 1号機で発見された異物のワッシャーはボルトが緩んで取れたと考えれば老朽化という観点で見ることがある。また、1号機再循環系配管の除染作業によって異物が入るなどそういうところの管理はどうなつていくのか。

A(東京電力) 対になるボルトや、ナットは見つかつていない、ボルトが緩んでいる箇所もないことからワッシャーだけ単独で落としたと考えます。現在は、消耗品の員数管理など異物混入対策を厳しくしており、ワッシャーはかなり以前に混入したものと考えます。また、混入した異物が原子炉に入らないよう、入つたとしても燃料棒に影響



Q 今回の5号機自動停止だけでは不十分で、それ以外の事象についての説明は丁寧にしてもらつてほしい。理解できる。しかし、柏崎刈羽原発が20年間で7回自動停止したうち、この1年間で3回も起つていく。何らかの分析が

Q 現場での管理強化ばかりではかえつて人的なミスは減らない。ミスをしたとかそれを見つけたことを表彰するなどの形で間違いが蓄積しないような管理方法も考えていただきたい。

意見 計画に沿つた防災訓練になると思うが、そのままで拾いきれない部分がある。また、個人のプライバシー、特に弱者のそれをいかに守るかということも大きなテーマになるのではないかと。原子力災害は目に見えないことから風向きが重要と考えるが、避難時にはどこが危険かどこに逃げればよいのか明確にしたい。

Q 淡々と説明する、説明は勿論大事。抽象的であるが、「血の通つた説明」が欲しい。それが「安心」につながるのではと思ひ、ひと工夫をお願いしたい。

A(東京電力) 時間と場所をいだければ、より解りやすく、且つご理解いただける説明をさせていただきますのでよろしくお願ひ致します。

Q 必要でないか。

A(保安院) 前担当者から引き継いで分析中であり、まとも次第報告したい。

原子力防災訓練に意見

前回定例会での原子力防災の説明のほか、福井県で行われる有事の際の国民保護法に基づく避難訓練の説明を保安院から受け、11月に予定されている原子力防災訓練について委員同士で意見や感想を述べました。

計画に沿つた防災訓練になると思うが、そのままで拾いきれない部分がある。また、個人のプライバシー、特に弱者のそれをいかに守るかということも大きなテーマになるのではないかと。

原子力災害は目に見えないことから風向きが重要と考えるが、避難時にはどこが危険かどこに逃げればよいのか明確にしたい。

原子力災害時に避難できる場所がない。安全だというのが安心というものはそういうところが大事だと思う。

災害弱者をいかに早く避難誘導できるか。また、昼夜問わずこのような状況でもすばやく避難できることが求められている。毎年でも市の主導で避難訓練をやつてほしい。

災害時には情報を早く公開・提供してもらい住民が避難できるように方法を研究し周知してほしい。

住民は原子力災害に対する組織や設備がわかつていない。住民がもっと危機感を持つて取り組まなければならない。

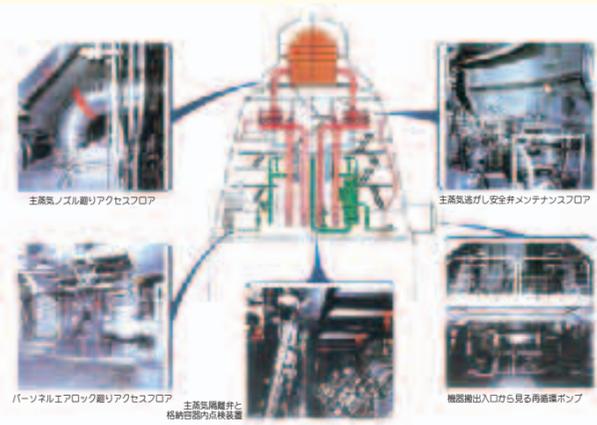
防災と言つても範囲が広い。避難先一つとってもいろいろな研究は必要である。

柏崎刈羽原子力発電所の視察を行いました

定期検査で停止中の5号機及び6・7号機の中央操作室をつぶさに見学!



去る8月21日(日)と22日(月)に「地域の会」委員が、2班に別れて柏崎刈羽原子力発電所の5号機(定期検査で停止中)の原子炉建屋、タービン建屋及び6・7号機の中央操作室を視察しました。原子炉が稼働している時は当然入れない原子炉格納容器内を視察するため、5号機が定期検査で停止中のこの時期に実施しました。当日は、格納容器内の各種配管設備、タービン、及び地震観測用地震計とスクラム(原子炉自動停止)感知器のシステム、また工具の管理方法・状況等々細部にわたり見ることができました。プラントの視察を終え、ピジターズハウスで活発な質疑応答がなされ、有意義な視察でした。



Q 11月に福井県で実施される国民保護法に基づいた住民避難訓練では、10月末に全都道府県などが参加する図上訓練を行うと報道されたが、柏崎刈羽原子力発電所ではどう対応するのか。

A(保安院) 福井での訓練は原子力発電所がテロ攻撃にあい、放射性物質が放出され住民が避難するという想定です。国は総務省を中心に保安院も含め各機関が参加します。当地の発電所が



Q ヨウ素剤の服用で医師の意見を聞くというのはどのようにするのか。

A(新潟県) 緊急医療本部が立ち上がり各避難所にヨウ素剤が配布されますが、服用に際してはヨウ素過敏症の方もいるので医師の意見を聞きながら早めに服用させるというものです。

特に対応するというのでは無いが、各電力でも視察などは行うと思ひます。

発電所を巡る主な動き(6月1日~8月2日)

6月1日	1号機原子炉建屋(非管理区域)における油漏れについて公表
2日	関西電力株式会社美浜発電所3号機の配管破損時における中央制御室への蒸気侵入に係る対応について公表
8日	3号機の営業運転再開について公表
9日	IAEA(国際原子力機関)OSART(運転安全調査団)の評価結果について公表
10日	県、柏崎市、刈羽村、安全協定に基づく状況確認 ・1号機運転保守状況等の確認 ・5号機第11回定期検査計画について ・不適合管理状況の概要(4、5月分)について
16日	1号機の定期検査開始について公表
20日	地震の影響について公表(13時10分現在)
21日	7号機の原子炉起動操作実績について公表
22日	5号機における原子炉補機冷却海水ポンプ(D)の不具合について公表
23日	5号機における原子炉補機冷却海水ポンプ(D)の不具合の復旧について公表
27日	1号機の定期検査開始について公表
28日	定期検査中の1号機タービン建屋内における油漏れについて公表
3日	5号機の定期検査開始について公表
4日	5号機原子炉自動停止についてプレス発表 定期検査中の1号機原子炉建屋内(非管理区域)における結露水について公表
6日	定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所1号機における圧力抑制プールでの靴の発見・回収について公表
7日	6/7号機供用廃棄物処理建屋内でのけが人の発生について公表
8日	6号機原子炉建屋内での溢水について公表
11日	県、柏崎市、刈羽村、安全協定に基づく状況確認 ・1号機運転保守状況等の確認 ・不適合管理状況の概要(6、7月分)について
15日	1号機圧力抑制プール内での点検状況について公表
2019年8月2日	1号機主復水器内の点検状況について公表 構内でのけが人の発生について公表 定期検査中の1号機におけるプールゲート連絡通路で発見された異物の回収について公表 2号機における原子炉建屋出入り用二重扉の不具合について公表 定期検査中の1号機における作業用仮設配管からの回収物について公表 7号機の営業運転再開について公表

色は行政の動き
色は東京電力の動き

地域の会に寄せられた みんなの広場



地域の会の今後に期待

柏崎市 牧 豊さん

耳が不自由になり、会議での説明や発言が聞き取りにくく、再任を辞退しました。

この2年間、働けたと思うほどのことは一つなかったと思う悔いと、やっとあの重い重たい一任から解かれてホッとした気分とでいます。再任された方々の勇気に敬意を表します。

“地域の会”は非常に貴重な存在だと実感しました。ことに会の中が原発を推進する、批判的である、中立的のほぼ3つの立場を均衡するように構成している点に、この会の優れた点があると思えました。

東京電力・原発にとっても、この会は貴重なはずで、今後の対応を注目します。

会の発足以来、東京電力・原発から会に説明のあったミス、トラブル、“事象”は非常に多数に昇りました。なかなか率直でよろしいなどと思う訳にはいきませんでした。

あの巨大な7基の原発の中で、こんなに沢山あるのかとためげました。

原発は科学、技術の粋を集めたもの、日常の運転でミスやトラブルなどはあり得ないものと想像していたのに、どこの工場にでもあるようなことが起こっているのはどうしても納得できませんでした。

今日の日本では絶対安全なはずのJR西日本で、あのような事故が起こされるのを思うと、東京電力・原発が絶対安全ではなく、絶対不安と言わざるを得ません。

“地域の会”は安全装置ではありませんが、その存在が安全運転に貢献するのは確かだと思っています。

とにかく、貴重な会。今後に期待しています。



発電所のあり方、私達のなすべきこと

柏崎市 品田 史夫さん

私が生まれて、物心付いた時にはすでに原子力発電所がありました。公開ヒアリングが武道館で行われ夜の闇の中、遠くの方で大きな声が聞こえていたような、かすかな記憶が残っています。柏崎刈羽原子力発電所は当時の小林治助市長を中心に地元柏崎市・刈羽村が誘致をした施設であると伺っています。広大な荒浜砂丘の有効利用と、陸の孤島となりかけていた柏崎・刈羽地域の活性化に大きな効果があったと理解しています。柏崎刈羽原子力発電所がなかったとすれば、現在の柏崎市や刈羽村の今日の状況はなかったと考えます。

近年、原子力発電所で発覚したデータ捏造やトラブル隠しなどは、絶対にやってはいけないことであると認識しております。原子力発電所におけるトラブルが発生するたびに、不安を感じる市民の方も多いかと思います。しかし、トラブルの内容を見極めることが重要なのではないのでしょうか。どんな職場においてもミスやトラブルは付物です。私達の日常生活に影響を及ぼさなければ、多少のミスやトラブルに目くじらを立て、追求しなくても良いのではないのでしょうか。柏崎・刈羽地域でも発電所で働いている方も多くいます。私の知り合いで働いている方もおりますが、彼らもミスやトラブルを故意に起こしているわけではないと思いますし、機械には故障が付物です。ただし、トラブルの肯定はしません。起こさないような最新の注意をさせていただくことです。

発電所を含む原子力施設に関わる報道には問題が多いように思います。危険性や事故につながるマイナス面の記事は、注目を集め話題となり関心を集めます。しかし、裏返せば地域住民の不安増長するだけです。いま存在し、稼働している施設なので、「その危険性をどのようにすれば排除できる」「それに対する対応はこうなる」など相対する要素の報道がされません。一方的な情報が私達に伝えられていると感じます。私達は自ら正確な情報を聴取し、判断をしなければならぬと考えます。

私は柏崎市で生まれ育ちました。柏崎・刈羽地域の自然や人、町が好きです。当地に原子力発電所があること、発電所誘致の経緯や地域への恩恵、原子力発電所事故時の影響や事故時の危険性など、これから大人になっていく子供達、これから生まれてくる子供達、次世代を担う子供達へ私達は伝える義務があると考えます。

「視点」では皆様のご意見をお待ちしています。宛先は下欄住所まで、またメールでも受け付けております。

地域の会ではホームページで活動の全てを公開しています。

ホームページでは活動状況をタイムリーにお知らせすると共に、会議録、会議資料の全文を公開しており、資料をダウンロードすることもできます。

また、ホームページおよび地域の会に対するご意見・お問合わせについて、ホームページ上からも受け付けています。

<http://www.tiikinokai.jp>

新聞に「県内トップを切って柏崎刈羽地方の二〇〇五年度産の新米の初検査が行われた」と報道があり、外は見れば色付く秋、収穫の秋を感じる季節になりました。私事ではありますが、少々太り気味の私にとって食欲の秋は体重計が気になる季節とも言えるでしょう。

さて私たち地域の会での取り組みは、それぞれの立場の人が、それぞれの考え方からの発言があります。その発言には感心する内容や興行き、深さのある内容まで1つの同じ事例であっても物事をいろいろな角度から見ると、意味のある事だと感じている毎日です。

しかしながら、私たちが発信している内容は本当に市民の皆さんと同じ目線で発信しているだろうかと思える事があります。分かりにくい、納得が出来ない、正しく伝わっていないなどが国・県・事業所に伝えられているだろうか？また逆に、国・県・事業所からの情報や内容を正しく、同じ目線の情報として市民の皆さんに分かりやすく発信できているのだろうかと思問する事が多々あるのも事実です。

「事実をありのままに正確に分かりやすく」簡単なようで難しい宿題ではありますが、地域の会のメンバーとして前向きに取り組んでいきたいと思っております。市民の皆さんからも会の運営の為に是非とも、ご意見・ご提言をお寄せ頂きたいと思っております。

(運営委員 K)

編集後記